

7 審査結果の意見・講評

令和4年度の水道事業会計を審査した結果、会計処理や決算事務について、一部に誤りが見られ、決算書や決算附属書類の修正を求めた。誤りの原因は、職員の計算誤り・確認不足・認識不足や、組織的な確認不足があったためとしている。

前年度もチェック機能をはじめとした内部統制の強化を求めたところであるが、引き続き、職員の育成など、内部統制の強化に真摯に取り組まれない。

(1) 事業概要

水道事業は、主に、老朽化している配水管等の更新及び耐震化など、安定給水のための事業を計画的に実施している。

本年度は、前年度に引き続き、ビニル製配水管をはじめとする経年配水管の更新や、老朽化した浄水施設機器の更新を行っている。

田主丸地区への配水管布設事業においては、同地区の水道使用率が低調なことから、配水管の整備を一時休止するよう計画の見直しを行っている。

(2) 経営成績及び財政状態

収益的収支については、総収益が前年度に比べて減少し、総費用が増加したため、純利益は前年度に比べて減少している。収益の中心である水道料金は微減となっている。

経営指標については、ほとんどの指標が全国平均との比較では良好であるものの、経常収支比率、営業収支比率ともに3年連続で低下している。今後も企業債償還が続くとともに、施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。余裕のある償還能力の確保に努められたい。

(3) 意見・講評

前年度との比較では、水道料金収入が4,051万3千円(0.9%)減少し、有収水量も約32万8,000m³減少している。口径別料金収入については、小口径(家庭用)が引き続き減少し、減少傾向にあった大口径(主に事業用)は微増に転じている。令和3年度からの10年間を計画期間とする「久留米市上下水道事業経営戦略」では、人口減少や一人当たりの使用水量減少により給水量の減少傾向が続き、それに伴い料金収入も減少していくと推計している。一方、老朽化した管路の大量更新や施設の耐震化での費用増大が見込まれ、今後の経営環境は厳しさを増すことが予想される。

このような中、経営安定に向けた取り組みとして、地下水利用者が多く、本年度末での水道使用率が3割に満たない田主丸地区の配水管整備について、令和5年度以降は一時休止し、今後、水道使用率が一定割合に達した場合を目安に、その時点の経営状況等を踏まえて検証を行い、再開判断を行う予定としている。同地区では、水道使用率が低いため、水質の維持に必要な「捨て水」が大量に発生している状況である。「捨て水」の発生を抑えるためにも、同地区の給水整備済区域内の水道使用率向上に取り組まれない。

水道は、都市の基盤・市民のライフラインであり、将来にわたって安定的かつ持続的に事業を運営していく必要がある。そのため、需要を見極めつつ、持続可能な投資計画等を立案し、事業の経営基盤強化に取り組まれることを望む。